

2021年4月25日 第5回オープンミーティング報告

2021年4月25日、オンラインで運営委員会をした後、公開のオンライン・ミーティングを開催しました。

テーマ：「詩・日記と p4c～綴ることと語ること、読むことと聞くこと～」

報告者 北浦 貴之（山梨県小学校教員）

司会 辻 明典（福島県小学校教員）

時間 午後3時～午後4時30分

参加者は基調報告者と司会以外は、運営委員3名、一般の参加10名、の計13名

概要

詩・日記と p4c～綴ることと語ること、読むことと聞くこと～
ことばとは違う形の〈てつがく〉もあるのでは
書くことも含めた表現と p4c との関係を模索している

子どもたちの「ふしぎ」にふれる
子どもには言葉や名前についての不思議が多い
他にも、「何で病気があるのだろう」など
子どもたちの「日記」を読むのも楽しい
不思議に思ったことを日記に書いている場合が多い
子どもの生活がよく知れる
言葉で経験をつかむ。言葉の使い方がわかる

「詩」も p4c に通じる
詩の中で自分と対話している。対話するという形で自分を表現している

対話することが、日記や詩に広がっているのを実感する
対話の中での真剣さ

輪になって語り合うことだけが「p (philosophy)」の形ではない
子どもの「p」に耳を澄ます

Q：日記や詩に p が現れるということだが、何かきっかけみたいなことはあるのか。たとえ

ば、p4cをすることによって、日記や詩に不思議が出てきているのではないか。

「聞くこと」が日記や詩の中であるが、p4cの中で聞き合うということが日記や詩に連鎖しているのではないか。

A:「言っているんだ」ということを子どもが実感するようになってくる。「聞くことと」に関するp4cと日記や詩の親和性がある。

Q:子ども一人一人によって「p」の意義は違っていませんか。

A:同じ場だけで、意義を感じている内容は違うと感じる

対話でないと心が開けないのではないか。

日記や詩も同じように感じる。子どもたちは友だちに向かって書いているということは大事なかもしれない

Q:普段でも詩や日記を共有するということをしているが、p4c的な視点を通して詩や日記を共有するということは、どう違うのか。

A:対話の相手がいるということ意識した詩や日記がある。

Q:どういう時間で、日記や詩を読む時間を作っているのか。

A:授業中に時間の配分を何とかしている。時間のやりくりは小学校の教員のお陰でできているのではないか。(担任教員によるカリキュラムマネジメント) 子どもも喜んでいる。

Q:子どもはどのようにして喜んでいるのか。

A:詩の言葉は普段の言葉と違い、発見があったり、ほかの子からの反応があったりする。こういう表現もあるんだということを知れる機会にもなる。自分とは違った世界の見方も教えられる。コメントを求めるとさらに表現していく。

子どもたちがたくさん書けることに驚いている。その点でもP4Cはいいのかなと思う。社会に出たときに行かせる経験をしているのかなと感じる。

Q:書けない子への支援はどうしているのか。

A:p4cをしてから、書けない子へのかかわりが自然になった感じがする。

教師の側から、たとえば、「昨日何食べた?」、「どこに行った?」という形で問いをかけて書けるようにしていく。書けることへの手伝いくらいはできているかなという気持ち。子どもは、「あっ、書けた」という気持ちを持って、それを友だちに聞いてもらおう態度が出てくる。

Q：教えているという感覚はありますか。

A：子どもの詩や表現をひたすら面白がっている。何かを教えているのではなく、聞くということ。子どもの書きたいことが書けるように、励ましているだけという感じ。

詩の場合は特にこのことはあてはまっている。p4cの時間も「教える」ということは不可能ではないか。

教師の立場って、知るチャンスにあたえること？

「学ぶ・教える」というのはこういうものだという固定観念もある。教えた感がない方がいいのかなとも思う。

「うまい」教え方を知りたいという思い込みをもっている先生はいる。

何にすごさがあるのか、それをずらす。学ぶことのよさを気づくこと。

「知る」ことそのものの凄さ。自分が知ることの主体なんだということ、詩や日記を書いたり、語ったりすることで感じる。

自己内対話。p4cをすることを目的そのものとしなす。

図工はうまく書かせることが目標ではない。教えるという感覚はない。面白がる。

高校や大学ではどうか。

工業高校なので、空いている時間にやる。今は状況が許されているので、敢えて哲学対話ということと言わないで、哲学対話をしている。子どもの方から哲学対話って知って言ってきた。基本だけ教えた、あとは自分でやれ。一方的に授業をするのがつらくなってきている。もちろん、共通テストの縛りはある。

大学では、ちゃんと授業をしてほしいと言われることがある。学生自身に教えるという先入見がある。

Q：日記や詩にこだわる理由は？

A：書くことで自分とつながり、人とのつながりを回復していったという経験

以上
文責 梶形